



2020～21年度
国際ロータリー会長
ホルガー・クナーク

Weekly Report Niigata



国際ロータリー
2020～21 年度テーマ
ロータリーは機会の扉を開く



2020～21 年度
新潟ロータリークラブ会長
高橋 秀松

新潟 RC 7 月第 3 例会 (2020.7.21)(書面例会併催) No.3329

(1) 高橋 秀松会長挨拶

連日マスコミでは、コロナ禍ニュースでもちきりです。緊急事態宣言解除後、この一週間で感染者が急増しています。皆様におかれましては、これから的確な状況把握とともに、気を緩めることなく、日々の生活を送られるようお祈りしています。7 月 17 日に新潟ロータアクトクラブの第一例会に青少年奉仕委員長の仙石正和さんとともに出席してきました。今回はコロナの関係でオンライン例会となりました。新潟ロータアクトクラブは金井結新会長の元 10 名の会員です。今年が設立 50 年目の年となるわけで、「継往開頼(けいおうかいらい)(先人の事業を受け継ぎ、発展させながら未来を切り開く)～50 年の歴史をたどって」のスローガンのもと、元気にスタートしていきました。若い力が、うらやましく感じました。皆さんも機会がありましたら参加してみたいかがででしょうか。

さてコロナウイルスの感染拡大が心配される中、日本赤十字の「新型コロナウイルスの三つの感染症」という記事を目にしましたので紹介いたします。

新型コロナウイルスが怖いのは 3 つの感染症という顔があることです。第一の感染症は病気そのもの、第二の感染症は不安と恐れ、第三の感染症は 嫌悪 偏見 差別ということです。この感染症の怖さは、病気が不安を呼び、不安が差別を生み、差別がさらなる病気の拡散につながるということです。

第一の感染症 病気そのものを防ぐためには、よく言われていますが「手洗い」「咳エチケット」「マスクをつける」「三密を避ける」ことです。

第二の感染症 このウイルスは見えませんし、まだワクチンや薬も開発されていません。不安や恐れを感染を防ぐには、「気づく力」「聴く力」「自分を支える力」を弱めない生活をしなければなりません。

まず、立ち止まって一息入れる、今の状況を整理してみる、自分自身を色々な角度から観察してみることです。ウイルスに対する悪い情報ばかりに目が向いていないか、物事を何かと感染症に結び付けていないか、趣味の時間や人との交流が(ロータリー活動)が減っていないか、確認することです。

そしていつもの生活習慣や、ペースを保ち、心地よい環境を整え、安心できる相手とつながることです(まさにロータリー活動そのものです)。これが不安や恐れを感染を防ぐ取り組み。第三の感染 嫌悪 偏見 差別の感染を防ぐには。ウイルス感染にかかわる人や対象を日常生活から、遠ざけたり、差別する

などでは、人と人の信頼関係や社会とのつながりが壊れてしまいます。むやみに不安をあおらないように、差別的な言葉や行動を取らないようにして、小さな子供のいる家庭、高齢者、治療を受けている人とその家族、自宅待機をしている人、医療従事者、日常生活を送って社会を支えている人、この事態に対応しているすべての方々に(我々ロータリアン同志に)ねぎらいと敬意を払うことです。

つまりロータリーの活動そのものが、この 3 つの感染症という負のスパイラルを断ち切り、感染拡大を防ぐ手立てにつながっているのではないかと思います次第です。

今世界は、感染症との戦いの真っ最中ですが、とりわけ日本は経済的社会的にも大変な困難な状況に直面しているわけですが、このような時にこそロータリーの友情に育まれた「職業奉仕」の実践は非常に意義のあるものと思われます。職業上の高い倫理基準を保ちつつ、職業上の才能と手腕を生かすことによって、経済的にも社会的にもそしてコロナの収束に向けて多くの貢献ができるはずで。以上で挨拶とします。

(2) 新会員の紹介



東北電力(株)新潟支店
上席執行役員新潟支店長
藤倉 勝明君
紹介者 武田 眞二君
所属委員会 出席委員会

東北電力の藤倉勝明と申します。この度、日高商事高橋会長様、日本海エル・エヌ・ジー武田社長様のご推薦を頂戴し入会をお願いいたしましたところ、ご承認を賜りありがとうございます。昭和 33 年、岩手県盛岡市生まれの 61 歳です。小学校から仙台で過ごし、東北電力に入社しました。会社では発電用燃料の調達業務に携わる期間が長かったことから目線は海外に向きがちでしたが、この 4 月から新潟勤務となり皆さまの一員に加えていただけますことを大変光栄に思っております。二人の娘は既に嫁ぎ、妻と母を仙台に置いての単身赴任です。かつては船釣りを趣味としておりましたが、最近は健康維持のため徒歩での市内の名所巡りを楽しんでおります。20 年ほど遠ざかっていたゴルフも再開の見通しです。「楽しもう新潟ライフ!」。色々な親睦の機会には楽しく参加させていただきます。よろしくお願い申し上げます。

(3) 若杉武君退会挨拶

(4) 各種ご寄付の発表

ロータリー財団寄付発表(高橋 秀樹委員長)

若杉 武君 田村貫次郎君

小飯田 澄雄君

米山奨学会寄付発表(徳永 昭輝委員)

若杉 武君 仙石 正和君

青少年育成基金寄付発表(本多 晃副委員長)

若杉 武君 坂井 賢一君

樋熊 紀雄君 徳永 昭輝君

本多 晃君

(5) ニコニコボックス紹介(小飯田 澄雄委員長)

・敦井 栄一君 藤倉さんの入会おめでとうございます。
藤倉さんとは第四銀行の監査等委員としておつきあいをいただいております。今回のご入会で新潟と新潟ロータリーを十分に楽しんで下さい。

・武田 眞二君 藤倉さんのご入会にニコニコです。

・東方 幸雄君 7月12日のゴルフコンペでは、シャンク7発。大穴が当たり超大量ハンディで優勝となりました。次に向け精進します。ありがとうございました。

・池田 修人君 結婚記念日にお祝いをいただきありがとうございました。

(6) 幹事報告(佐藤 邦栄)

・例会後、4階「雪の間」で新会員オリエンテーションを開催致します。

(7) 事業計画の発表

- 1 社会奉仕委員会 新田 幸壽
- 2 米山奨学委員会 安藤 栄寿
- 3 青少年交換委員会 吉田 和弘
- 4 RA委員会 塚田 正幸
- 5 IA委員会 松本康宏(副委員長)
- 6 ライラ委員会 大澤 強
- 7 青少年育成基金管理委員会 樋熊 紀雄
- 8 R財団委員会 高橋 秀樹
- 9 予算説明佐藤 邦栄幹事

(8) 事業計画、予算の承認

・事業計画、予算の承認がなされました。

7月28日の例会予定 「納涼例会」

会場 イタリア軒

午後5時受付 5時30分開会 午後7時30分閉会

新潟ロータリークラブホームページアドレス

<http://www.niigatarc.jp/>

＝ コ ラ ム ＝

2016年3月頃と思う。岡山東ロータリークラブの浦上澤之氏(元・岡山理科大学工学部教授)なる方からメールを戴き下記の「表題の投稿文を読んだが反応はどうであったか?」とのことでした。それは2016年2月21日と少々古い事でしたが、ロータリーの私的な会に投稿したものでした。メール返信で電話番号をお尋ねし、こちらから意を訪ねたら「この文章を“ロータリーの友”に投稿し、多くのロータリアンから読んで貰うべきだ」とのことでした。きつい表現の文章なので“友”には向かないとお断りしましたが、それでも背中を強く押されて投稿する次第です。ロータリーの友に掲載されなかったと記憶しています。以下の文章は、少々数字・奨学会の事業報告などを読み直して校正したものです。

米山記念奨学金制度とR財団寄付に付いて思うこと

2016年2月18日午前0:10分からNHK TVでNEXTというTV番組を視た。大学生の奨学金に付いての取材番組であった。現在日本の大学生の約50%(133万6千人)が奨学金(日本育英会の奨学金)を申請し、貸与されているそうだ。驚いた! 学生により貸与額は違うが、平均263万円だそうだ。番組では、沖縄県で双子の女子高生を持つシングルマザーを取材していたが、一度に二人が大学に進学を希望している事を知り途方に暮れていた。

入学と同時に年利3%の借金を背負って進学しなければならない。そして、卒業と同時に返済が始まり、当時の社会情勢から就職できず途方に暮れている者、また、就職しても会社の景気不振などで掛け持ちアルバイトを強いられ、健康を損ねる事すらあるという。返済相談の電話が一日平均3千件寄せられるそうだ。

3ヶ月滞納すると延滞金が生じ、返済ができない場合は破産宣告とされ、勿論クレジット・カードも作ることが出来ずブラック・リストに乗ることになる。これは、もはや奨学金ではない。借金地獄である。

ロータリアン諸氏の周りには、このような状況下に置かれている学生とは無縁であろう。外国(主にアジア・アフリカ)からの大学生に、我が国のロータリーは米山記念奨学金制度と称し、ロータリアンから2018年度14億円を集め、2019年度では年間(国別では、中国339名、ベトナム135名、韓国80

名、台湾 29 名その他 285 名)合計 868 名となっている。外国人留学生に毎月 10 万～14 万円の奨学金を給付(返済不要)し、カウンセラーやクラブ・地区からの手厚いサポートを受けている。月額給付額は、5 万円程度で十分ではないかと思う。

勿論、この制度を否定している訳ではない。だが、然し、地区の選考会で選ばれたこれ等の留学生は来日以来、どのような大学生生活(経済的に)を過ごしてきたのだろうか。米山奨学金受給者は中国が飛び抜けて多い。次いでベトナム、台湾、韓国である。本当に奨学金を給付しなければならない在日留学生(国)は、もっと貧しい発展途上国や我が国の苦学生にも広く門戸を開く必要が無いのだろうか。

(公益財団法人) 米山記念奨学会の役員・理事は、一体、誰によって選ばれたのだろうか。また、何を検証し、何を為すべきか、その任務・職務を真摯に考えた事があるのだろうか。米山記念奨学会定款 第3条には「この法人は、勉学又は研究のため来日し、わが国の大学等教育機関に在籍する外国人に対して奨学金を支給し、よってロータリーの理想とする国際理解と親善と平和に寄与することを目的とする」とあるから日本人学生は対象外だそうだ。それならば定款を改定し、日本人学生も対象にすればいいだけの、簡単な話である。

日本のロータリーが、同胞の苦学生をサポート出来なくてどうするのだろうか。米山記念奨学金制度は「世界の架け橋」などと唱えているが、日本で就職し自国に帰らず、ロータリーの理念も自国に広めず、どうして「架け橋」などと云えるのだろうか。地区米山奨学委員会、選抜担当者諸氏の真摯な研修も必要と思う。所詮、「他人(ひと)の金で奉仕をする虚構」と云う故・佐藤千寿 氏(東京東 RC)の最後の論文を思い出す。先ず、同胞の若者の夢と希望を叶えてやれるようなロータリーであって欲しい。

強かな学生の中には仲間と二人で申請を出し、選抜された学生と山分けすることや、私が地区幹事の年度(2004 年)面接・口頭試問を行った際、「奨学金が受給されたらどうする?」と意地悪な質問したところ、驚いたことに「国の両親に半分送る」と答えた中国人学生がいた。正直な子であった。その中国は、我が国を抜いて GDP が世界第 2 位である。韓国はどうか。初等教育から高校まで、歴史では反日で事実に基づかない教育をしている。

私は、納得できない米山記念奨学会への寄付は数年前から止めて、国境無き医師団とユニセフに月額 3 千円ずつのマンスリーサポートに切り替えた。何故ならば、米山記念奨学会へ寄附することに、後ろめたさを感じてしまうからだ。自分の子供の教育を放棄して他人の子供に与えているような制度である、と言っては言い過ぎだろうか。勿論、厳しい選考試験を経て外国人留学生も公正にチャンスを与えて問題はないと思う。

一方、ロータリーの R 財団が勧めるポリオ撲滅の寄附もいいだろう。然し、この地球上には生を受けて母親の乳も飲まずに死んでいく嬰兒・幼児、地域紛争で命からがら避難する人々、等々が報じられる。どれに優先順位を置くかはロータリー(RI)が決めることではない。1985 年ポリオ・プラス運動が開始した。何故ロータリーがポリオ・プラスを最優先したのか? この運動を見捨てていいとは思わないが、ロータリーはユニセフと違う。ロータリーは、これ等の重要性を会員に示唆はしても、決議 23-34 の 5)項「国際ロータリーは、一般的な奉仕活動を研究し、標準化し推進し、これに関する有益な示唆を与えることはあっても、しかし、どんなクラブのどんな社会奉仕活動にせよ、それを命じたり禁じたりすることは絶対にしてはならないものとする。」と 6)項 g)には「ロータリークラブでの社会奉仕活動は、ロータリークラブの会員に奉仕の訓練を施すために考えられたいわば研究室の実験としてのみこれを見るべきであるからである。」と記述されている。

ご意見を頂ければ幸甚に存じます。

文責: 新潟ロータリークラブ 小山 楯夫

米山記念奨学会の HP アドレスを貼り付けました。
一読し、検証してみるのも一つの奉仕活動かもしれない。
<http://www.rotary-yoneyama.or.jp/summary/organization>
又は、インターネット・ポータルサイトから
公益財団法人米山記念奨学会 を検索